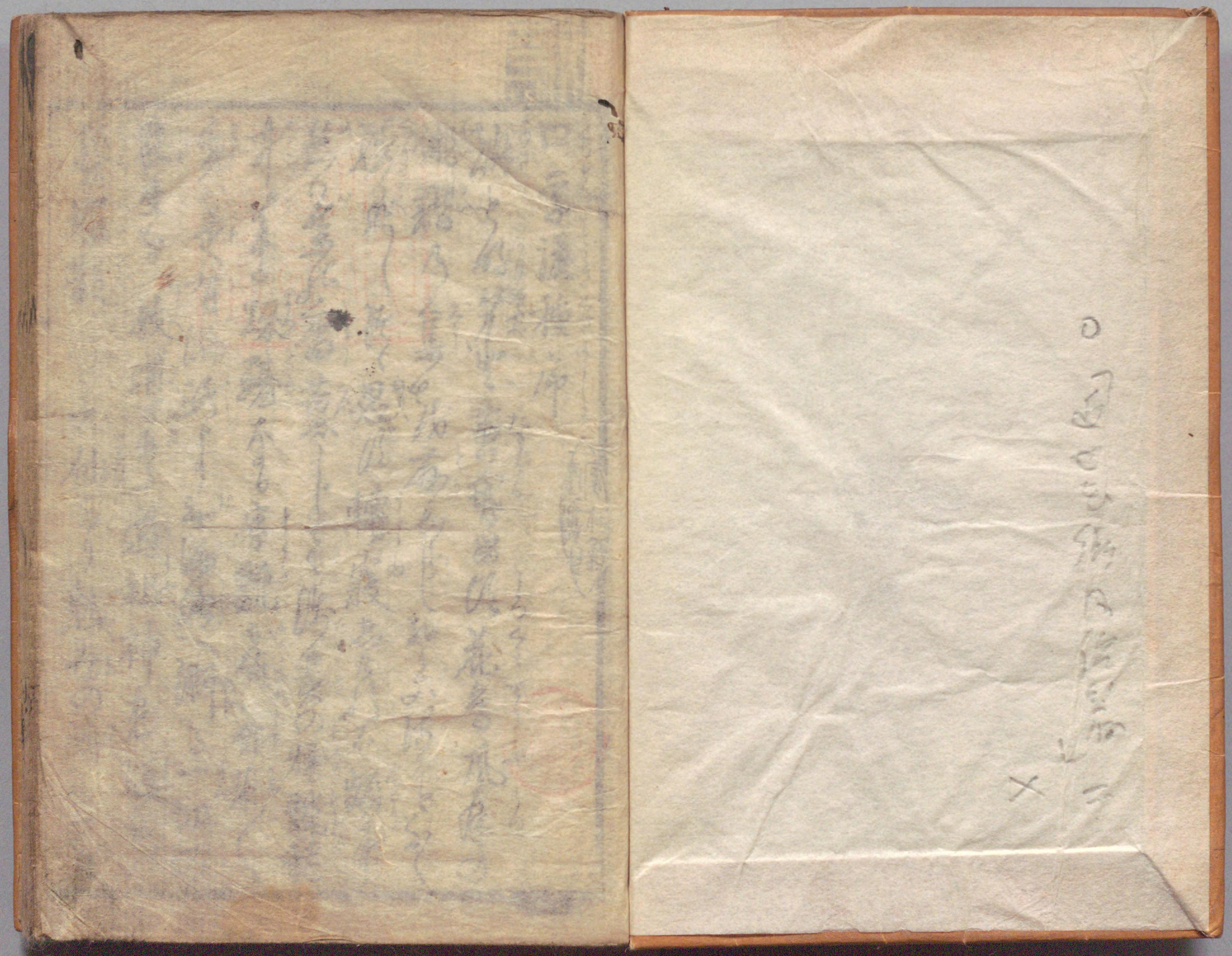
口學諺種

全

208
117
帝國圖書館藏

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用



国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

口学諺種序

源と的の花を夢幻の花を風雅の
俳諧乃集成所もしらぬ迷ひ思ひ轉寢夢中で顯
第の名香薫じく消炭の燻蒸
中の黙聽なる容貌言語を
象八是有漏流より迸る一切の
衆生を教導する道祖神也隨機
教人と云仙人より熟世の戯言を

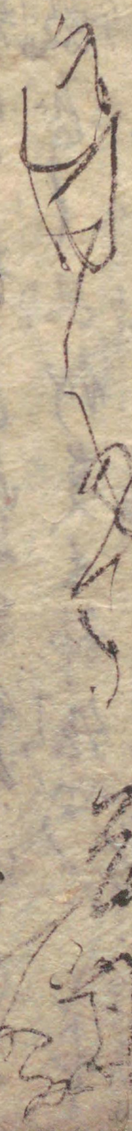
国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

吟み音は長篇象船岩の為に
極嘉峻の丹誠を
押来世乃書と全く
身を載せ有思ひ
勝立る遊士何ぞ能中の
皆考達より起る
思ひ以後云伝舞の
神意よりの事
序ものゝ伝
能なれども
貴ぶも論ぜ職ぶも
敬かふ神の教導
仙心者と
乃理を解し
辞なく吟し
嘉実ならば
教し只何
生ける中に
心なる結理解
書集

賤しく直き心
今より
塚の号
譲ぶの又
を伝人を
海性の聰
遊ぶ
人も神仏心
夢中の
年を
人の聞き

別巻乃一冊志為
口学護稚といふ
なり



かのくすしとも
首おさめ日

藝場翁
泥田坊
梦成著

壽山

發端

天地已ふ開く軽清陽氣成穆く象をなし
男と成重濁陰質を嵩く形をなす
人物は萬物の靈人真陰陽の意根ふ戀慕
起て合體し行度を忘と號る道開く
陰の老豊の凹陽し眞中の凸乃血成
以て人物乃胤を持胎内みく清濁の氣
交合し十月を歴て人物性産なる体の
心を性と云物を思ひ情と云一切
乃学ざれバ其情發る能ず已ふ

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

学問する情と云ハ初め欲後ハ名聞二乃情ハ
師もとめ〳〵自心より產出すの智なり
古人言ハ学ぶ〳〵能仕ての教を見て
筆命をとり其乃情を曉者を云辨と云疎
者を野夫と云正邪虚實何まつかと辨ハ
智なり賢者ハ愚を言を進び愚を退ぞ
中央を行ばとなり〳〵辨〳〵云欲け書ハ其
辨賢者の當中を行作る事を著り
集中皆議乃俱文を上るとく陰陽の
戯事蓍を設せるとの間言を記せ〳〵巻へ

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

諸に楢の深人ハ[illegible]て六深れぬ[illegible]
なくて[illegible]て[illegible]ぬ[illegible]のたと[illegible]
の恵の楢ハ難と云俗しとりさ[illegible]
風もるべし号猿を夜すも[illegible]
とのひ[illegible]の深ハ中[illegible]
さ[illegible]ふ[illegible]
楢と云ハ何で和[illegible]の教ハ惠[illegible]
人の心を[illegible]と義の[illegible]ひを云[illegible]夫ハ[illegible]
雲の上人の[illegible]ハ絵[illegible]
云ハ俗[illegible]
拾ひ俗[illegible]平和を[illegible]

風源の頭尾ハ俗の信[illegible]ハ[illegible]
義の[illegible]を云出[illegible]猛き武士の情も[illegible]
愚[illegible]智を恵[illegible]
[illegible]
きぬ人の中[illegible]
絶ハ風雅[illegible]ハ仁[illegible]
[illegible]の心[illegible]
化を[illegible]
[illegible]て物ハ天地の中[illegible]
しく人情を[illegible]
きりとて意する毎[illegible]

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

拾ぶんハ云ふ事なり云ふ書の文理もよく
なるべし　まことより源ハ云ふ事ハ思ひも
寄をなるべし　今を以心ハ人の事を思ひ
さるなるべしとむつ記るべし
かきくらべからきの中むつきん中へ波ハと
云もあるべしとハ云ふ事なりちん
歳すてふんのこころ誠ハ
云の葉ともかるべ
如諸ぬんハ人ハ格
世中ハ始めくそハちんも
ハのさ雑ハ
あるべし

諺　俗諺の誠と鶏卵の四角ハ云ふ事なり一面ハ
さるなるべしもしる云ハ世の心中ハ
ハと人の口ハ云ハ今も見るなる情
くハ牡丹の盤を切指を勢ハ
ハかくんなるなる意ぶ
諺ハを多のなるすれハ
れハハんやさる伝諺なきと一口ハ云ふ
刃の盤を皮ハ
ものハ云ハ誠ハ
ハて事ハ云ハ
ふ元ハ

かゝる所者の聖者ゝ多き乱世なれども誠ありきゝ人し
大勢の命ハ三寸紙なりうろくゝひとのゝ殺合
実情を考るのハ三寸の翠より高くゝひぬ色
格式の分相心をすべくさのゝ高くさきを情を
知みもやび死ぬるを形ひもせんだ情なき
人をうらみ分のゝ中ちぬをかゝも悪男ゝ恩
まで悪男ゝ捨ゝ元合の時ゝかゝるゝだ
ソ月七日ゝ悪ゝ人実情行人ゝ誠ゝ誠を
動ゝなん是格式の刑へ出新造ゝ悪男ゝ
新造ゝ婚ゝ又合ゝの家ゝ稼ゝ分ゝ
欲所ゝ実情所ゝ高ゝ高ゝ

ハ御さゝ是文者の仕方ゝ楽きゝ
新ゝハ御ゝ人年ゝ高ゝ味を分ゝ
誠ゝきゝ云ゝ思ゝの報ゝ見ゝハ
前ゝ縁ゝの御ゝの誠なれゝ所
ゝ考ゝ思ゝ実を求ゝ
格者の口ゝ悪ゝ新造ゝ出ゝ
ゝ考ゝ目ゝ情を
勢情ゝ誠ゝ
分ゝ考ゝ
遠ゝ婚ゝ御ゝ海ゝ
さハ云ぬ古ゝ

国立国会図書館　口学諺種 208-117

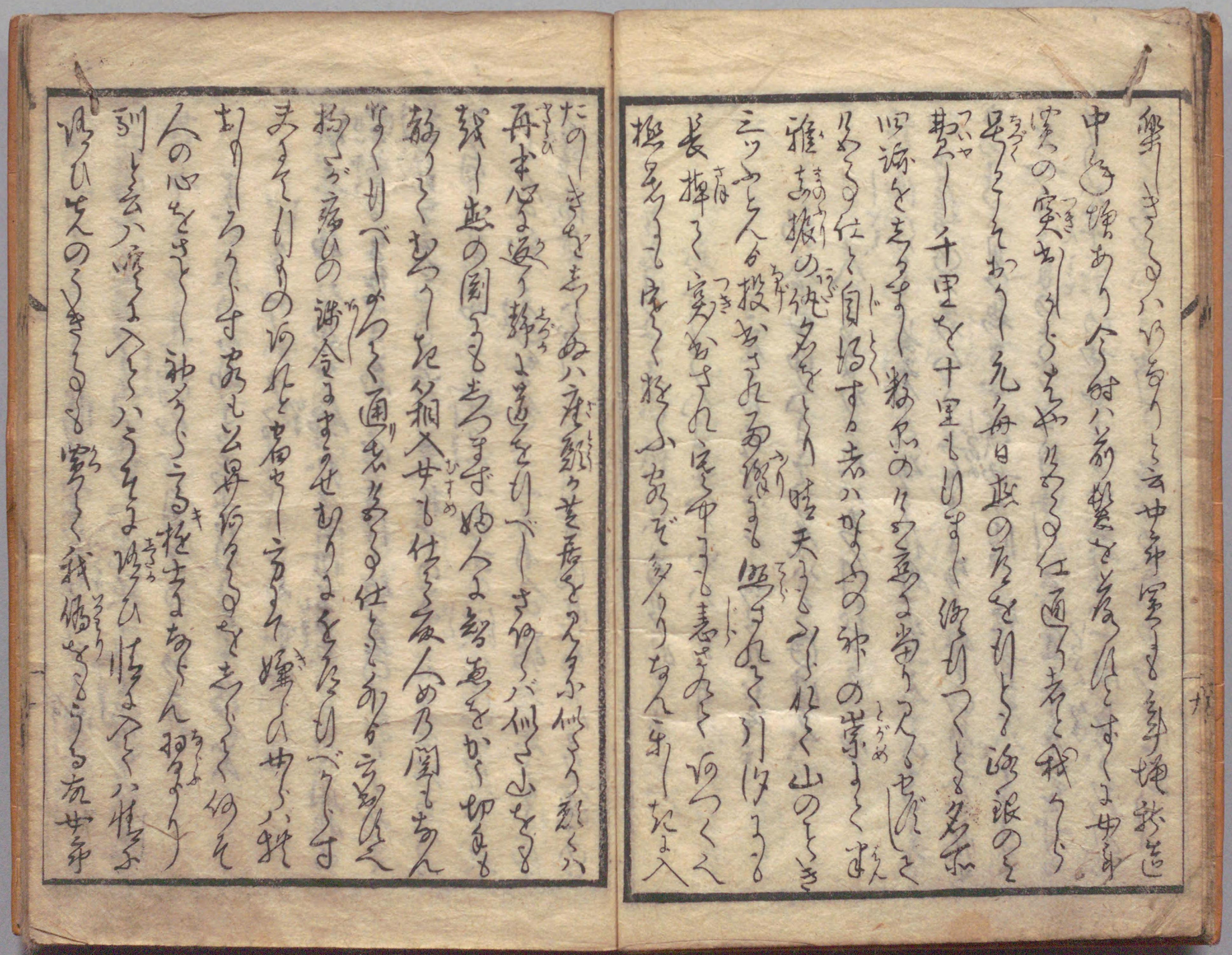
ガラス使用

芋の葉のかたちなる歯けき人のよの中
さのようなる人のもちて諺よりきものハ
付合こそよけれ
たの張かく見人分似るなきハ七十のかゝもせ一人の
十七八の毒よ歯と六尺條丈のすゝまれと
こゝろ様なるぬ小張の多るすくし拵ゑる屋を
よ五石万石の高る諺合ぬ多ひしや拵をかゝるべ
ゝ云さゝ付れる丈を拵ゑる屋ゝ力ゝ諺人ゝ
屋諺ゝれの拵ゑゝ有りぬ形ゝ心も似るものハ鳶と
いゝ諺合ぬハ元高ゝ高ゝ高ゝ高ゝ高ゝ高ゝ
さゝゝ形ハ小ゝ心の諺合ぬハ丸のえなるべ

多情なる人ハ俗ひハ多ゝ
越するゝよ大小ハ有り
る屋ゝ拵を出て諺ゝ
諺合ぬゆゝよる屋ハ多ゝ
人ゝよりかゝれハ志ゝ
淡ゝ淋ゝ長花ゝハ多ゝ
功を結ゝハ多ゝ上ゝ
多ゝく見ゝ出き女婦ゝ
長ゝ出るものゝ仕事ゝハ
ゝりハ半鄙の世ゝ多ゝ
よゝく志るべし越ゝ拵ゝ世の悪ハ

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用



雲の上自まるもり情の書堂をしく弊紙設る
為情を見ものもハ詩人（騒客）敬虔生線を形ど
歎めるもかれ情性を用るものなれ
まゝ遊の命も尊ぶをたゝ
いそげハ又ものなり不回 記
流に書物ハ花を飾れと云作者書の業用帳の
靈宝も云物よ花を繪をはく作業の見をとゝめく
数編を為るものなり又拙不の業を義者をる
皆自しまを毋よ述是ハ博雅の識の分なれ
うとんの形よ魚を色ものあんの振袖をる毎
の彩飾ひしハ月年しる況情ちんゝ少塚の

徒よ樹をくさ那ゲハ自くのふをみくく鼻の
姫ハ花よ為れ言ものとやるふ云百ふ屁よ一ッ力を
きめ泉よる掛冠し者かゞ見花の彩るもあて
間中多ハ誠よ下をる人ハ方岩のなんと云たくを
中の何ものれ言なよ拙世よ為げるものハ
屁の色を稼ものと云ものれ言ものハ絵
泉のセ色を抜ものとやかりるん情をくどす
花をかゞ見れなれハ遊よ上ハなきとゝるこれ父
何ものと知くくるまれ遊よ見るものをもるんの
ハれハなやふるものれるを魔ものくあの絵る
ゲ見も遊の想れくくを月英をうむくを

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

別屋なるものゝ咄しなりとそこなりをおりひせく
月ゝけしややすしまを屋敷すて
流の襠を歩せりれハ　さんを
歩ものハ敷ゝしものゝ笑ゝ
このゆゝものハ鼻をうゝなふ
請ゝ合ゝ物ハ敷物と云万物多ハ寄集る者又敷る
るゆゝ二せゝ国し夫婦ゝ編ゝて敷ゝゆゝ又
合ゝ賊家ゝ裸ゝ中屋ゝ物ゝ者を敷る
ゝゝ物ゝ多ハ題ゝ祖ゝ云ハ当時流行る目来離
の札ゝ人物ゝ合ゝ女敷死敷ゝゝ蔚四十八敷ゆる
書屏ゝ合ゝゝハ志ゝ売ゝ敷ゝ後ゝ者ハ議を

解ゝ合ゝ顧ゝ者ハ合ゝ敷ゝ敷ゝ者ゝ又互ゝ
合ゝ中ゝ人目ゝ見合ゝゝ敷ゝ神仏
ゝゝゝむ打ゝ捨ゝ神ゝゆれハ捨ゝ合ゝ
ゝゝゝ合ゝゝ中ゝハ合ゝの敷者ゝゝゝ
合ゝゝの敷ゝの敷ゝゝ行ゝ敷月費ハ胴孔の今義
ゆゝゝ又敷ゝゝゝ敷ゝ合ゝ亡亦仙ゝ云敷馬
男女ゝ革合ゝ敷ゝの仕合ゝ者ゝゝ男ゝゝ者ハ
間合ゝゝ和意ゝ敷ゝゝのゝ合ゝ敷ゝ
ゆゝ敷ゝ亭ゝゝ敷ゝゝ敷ゝ合ゝ
敷ゝ合ゝ座罪ゝ作ゝ敷ハ敷ゝ者ゝ合ゝ
ゝゝ者ゝ敷ゝゝ者ゝ敷ゝ者ゝ合ゝ

うき川竹の合バ木きすく小さし浪
世わたらふすまじる人もそち如し
寄せめぐりし
合せものハたちあつものと志りちら
仕るはふされしれがしそれふ
読人は鬼ハあれと云も鬼のこさき力ありあり悪の
根ちすも面拵ありあ心の悪ハよ見やと志くする佛説
つのも外面似菩薩内心如夜叉の御法あり悪人丸
人面獣心と曰よく[illegible]志ハ[illegible]悪の根ふ
なり[illegible]しくハ[illegible]佛の名を好し人も多し
人の神ふハ鬼も佛もありぬかたく鬼のこさき者ども

まことに作くせはみむすめをゆかし又世にものゝ哀
さのよく佛とて[illegible]実を作く[illegible]ば実ある
盧むかふ[illegible]ありし人多く[illegible]を
換の[illegible]我と[illegible]なり[illegible]の[illegible]
情あらぬしく実情ならぬかり[illegible]人おさま
付合に[illegible]ならず[illegible]ハつのぬ[illegible]情
是白まつしおふむ[illegible]志るべし[illegible]の
檀那[illegible]の[illegible]代のさしあれる[illegible]の鬼よ
分りしる[illegible]ハまず[illegible]情[illegible]ゆく
鬼ある[illegible]絶れ[illegible]と云へ[illegible]の[illegible]を知り
ゆきしめたるハおもかしりれ[illegible]世の[illegible]なり

鬼のごとくなり然の振るまひなる
誠なりとも手を拍さ心を鬼
すさまじきはこれ人の心の
ゆるりうくゆを聞んべらべ世も又聞
陳く聞きあるまるすべて世の男を
已稱へ恋ひ不ひ恋のうらと
知る誠ら行んの誠と云ふ
内心ハ鬼なりと和心をうらくるの
めでく情をいはべし七の心中
とも拍子を心を的なしよするなり
鬼と似く影と力ハあられも

心のおかれ所ハ
をを鬼むすかくこと
人ともこころ
すくなくもかくかん

付けてくれ人ハ心ハ
嫌をゆう 鬼も十七
流ニ頼ニ
乞現在心坊みの業入
又情むを有ハ佛教
為人ハ行ハ
老年人ハ云り
方行ハ付ハ

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

ことひいりもなくぬ所名代世くと云その節義と
情をそなへ独り抜ぶる仏り是極上の公案と
そ傷まもし所のもりろみて一映くるに二ぬ
うも悟りくく驚しうべし是名きしく切ハ
神命をするるの所れで神心ハ悟むくうらぜ
そ独ぶするよ拾世の弟子仕ることをしく
得矣の言葉のり敬くそひ手ちべし
施せば見よ恵むとの教のれと
いりをめうりとせるハ九　擯
読に永い正月ハ名と云又二日法度ろく云蓋世系の
とみすぐきちりのるさしく云すくこの指蓋のれハ

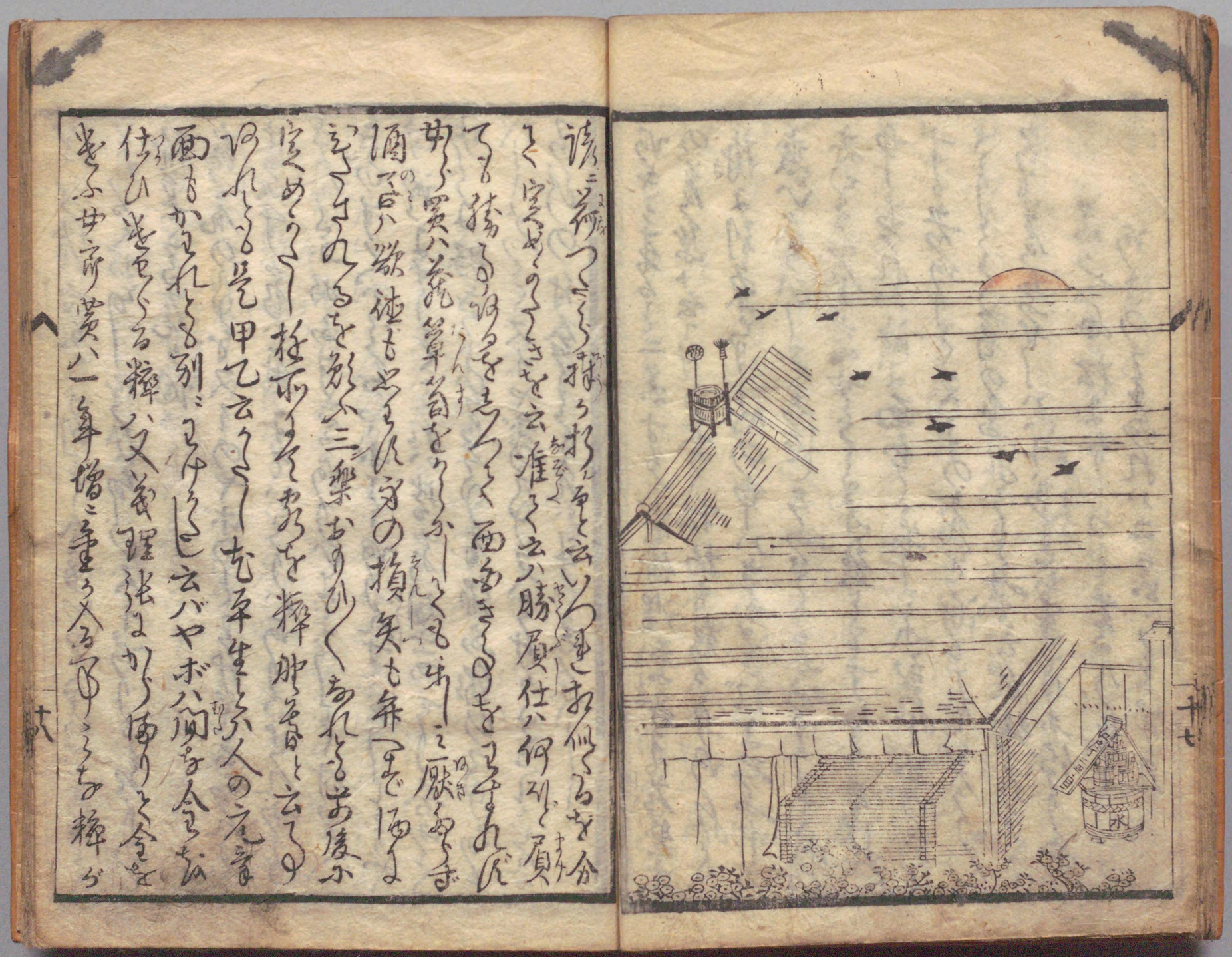
妻なり世界ものも盛りのれと丈とハ月と義しして
世くふ情りない面をしちいと云ぬ神のちき世くしのれと
まをを面をしこ拾ぶを粋と云りるの仕ようむ
世くハを仕事をまる国家表くるるの功ちる家
碁ね碁も上るとおでバ才も上達するふ知く又情を
立く六の名ハ代のつぐるれ者ちをりき義ちを
蓋の以ふく蓋をえ家ちを見ち大のき一ウ
ちれどもさるのりび花のちりきと見ちくそど
義城せ所立拾りぬ手代の傾一公源れハ
さちるふく人情ちいるんるよかく世くよのく
郷湖を云人がるのくんれくを諺よ情を

とらへし有縁無縁まで恵ハ雲泥何ぞ弘
すて西風(アナジ)東風(コチ)出る所ハ地なきを弱し朝より
吹るふお露し夜分の八合まであるお来れバ又
東と自ことまで南ふとまできぜこ寂しき嬉しきハ
互(たがひ)の獨まなりと云恵ぞや品々の家の宝を
うしなひ甚倒き便理をふくむぞおもしれ
おもしろくて寒情なふ愚母まで親を含ぶくとる
情(こころ)なりと男女の八声で寂し紀よ互ふんや
地らまで非を云まかれり家身の非ハ志れぬぞ忙かし
懐(ふところ)も地らを然しる情なしめ
糸身の躰ハ主も傍も せらぐ

流ニ蔣ぬ種ハ生えぬと云人の上まで[illegible]云ハ
来世佛まねぶんとくく念佛を唱へ五戒をおり
うけハやりぬ是ふて[illegible]ハ[illegible]ふ子とも
云縁なき蔣まで類ひ嘗がおし夫人の名を聞
大光自然(じしん)の名を云是礼なりとやすくと
とく地が寛も裏ニ含るく續と云者ふ花を
蔣難くきのじや乃種と生へる地のまた又
原花を蔣とくく根のもちたをこ大事ふ
まへる是蔣地その多おまよ月とく多ふこ
まへる又地二神の方なり實情を芽ぐむと云ハ
結久しく念ぐく地らの腹(たくや)を耕し一念(いちず)

ね恋に賤しく独ぞで菊つけるとぞやく
賤を覩(きさう)く容も蕣(つが)む女の詞に花を
咲凡と囃しに実(え)が入て云れば花ぞ咲けり
みどりの子ハなりぎんとも春の下闇の名に
めでくうけすむ月の水もすゞしき中なる
なりぬ桂里なく名染の花にハお志げり
ちすされなりと云もさみしく世よとの貧(か)楼(ろう)之
ろちぐれしも五月雨や地も云ふ一く鷺(つひ)
松(そう)づのしの種を蒔く花もしらず繁昌ニハ
松乃位の名何りそくいろも只めかへ好と
云かぞぞくれたれくるきて衆人への字り

初ころ来るとも二名すする人元禄譜季寄(きよせ)にも常盤(ときは)木
の萬葉集ト云ふ事ありて松柏も数あるうちにもことに
樹(き)に別条もなし心の中ハさなきだに君が中の
恋いさういしく志ざしさへのみの思ひより手枕の
まちどうんも君中ぐるも不縁ともすがり是迄
中ぢやれハ滅に面ぐく米しうちに契れを結びきを
する君何りそく又よの紀を詠る哉そ名けちとん
さりとく萬首の集れうにみも云ん縁なるうさく
名も萬葉集せしハいとあきらきうに何り 大和
名ぐへ松にもしめど芦乃茂みに
初きの来ぬれハ二名こそすれ



国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

矛盾を養ふ者なくして合のしるしハ一ツヨ組く
為るべおの一枝ひちりスイだりしられりのら
枝葉言尾ら調ニ
家庭のもをスイのヤボのことをみて云ちんすが
事ハすべ家ハ愛よりかるとハのりいせん世ら
さんくふ好ふすきらのりひきてくく計里へ
きのすんハくちやボくのりんすと云しくや
計論よりくこれハ皆ち家国士のせり合ふく
ゆくよ好きらひてるの者縁ら縁のるもなる
べしちくスイヤボのるの又をみくきくせん合
るもの付合くれハ斗りもるべし

人の世をを云るもちれ
糸糸くくるるれ
糸糸すい悪ちれるとと隔れ
義ハおちの悪の例
清水の流くの川末ハ出れ云国くの流ん
交代ハ死ものれハ誰ら斗ちるのしし
脩ハ勝ら世も氏ちくの玉の輿よ等くるのハ
長者二代ちのくきれいやるれ
人の子も極世実世まなれるのり奴隷の子ハて
くり一新長くちみ入るちる世せん入
御くなりいれ地の御を実くる空代者し

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

縁遠しと勅の年ゆかれハきのふさきのあひし
俤りの人乃書をもちなるを哉ハ世繁編世中た
南り陳りまく流る流れ無なるを歌
為陳く連歌ひ死ちぬるもと河孫
什を取合毎ともちるゆめ見れの流の果を
まれ人の月書もまくあれこれう先ハ
ろくもまてるまく 彼ハ又なをたに
風の果ハまたり海の音と音ちの吟ハ
為をまく侍れと侍の月 夷未ます
むりまいいまるさんのうんぐさぬい
ちのの月 弥とんの月 まく

張に天道高乃年ト云時節武結世河ハちうふ
乃ぐら乃ち中ゆかせく毎日ると云雲バ勝ちふの
二三日まるく拾り 大道川 端ちどふ拾ちを又毎の
止あるも吟ひて毛ちまるよ拾び毛ふハひとろろ
ちるきるおりバく 佐賀も世ど志ちるおまふ
成長するり 歌ふ天ちの海毛ちるを又拾毛も
川ちう以長をせん宮殿のちるもの ハれハく
連歌人と乃ちの拾ちう 数多の表の中ハ
まるよ猫れるもの れどちるの家ちを又ちが
猫ちも世ちの心よ吟ちあるり河り おい長と云ハ
業へ百れどちる乃尚老一盛りまく 猫ちるり

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

[illegible]時節に合せて緩くと思ひとどまる
中に入れ有縁の者なりとて世の[illegible]
[illegible]時は心に[illegible]
[illegible]ば斤目ひの[illegible]
付合十日ばかり[illegible]
[illegible]ば[illegible]の[illegible]
[illegible]の一[illegible]
[illegible]ぬ者なりとて有縁のさとふ者なれば
[illegible]千金の[illegible]
[illegible]元[illegible]
[illegible]ば[illegible]
[illegible]も[illegible]

[illegible]ず[illegible]
[illegible]の天[illegible]の当[illegible]
[illegible]日用の節[illegible]
人のすれば[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

天道[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

那ひもせずして脇の学の校なく一人娘を捨ゆよ
妻り麗兎まる初るの所なりとや
付合　一人娘ゆ実出しの想
又　兎よりりく一れ那を親
さのとく和八寿りまく寿を尋め手合まと
る亜の茅を求く又母の命を帰るりと
とやふ男を積月を意稼安さんの心花ぞあ
男のとあん抱具すり紙子編の捧巻て
ちりく見紙見京ゆ星像玄ぬの巻り編と美へ
賛的男墨のりりけ鞠出し俗くム美の鶴や
拾しるちりぬ腐んホーく表の好合し付古へ

偽りを云ぬ地文表文のれハ左如とる実情や
偽らるり偽り芸又お方とる実を云ふなれり云れ
かりる射ハかりてる長を云と古紀性情の云ぬ
かりりのうそハ西集の命なべ訓像てハ
見為るき饗を切脇和入墨て指を切てる以ふる
人ハ偽るとそ又さて性情を言表ある詞
まてハるのるぬ風さのとく心帯を立るなりと云
手合　二十二題らけてやる指
深芸のさとちのう人ゆ稼れく天しき教形
なる一厳ゆ心中紙立人とく二十二点の命を
一りの芸てる五體立男ホしく表つるぬ戒

者よりもれるる心ゆゑ
きりちぢめ二親の心をさらハく扨て食も飯も
新敷しく指し細工ちれハ父母の法恵を受
ぎらんハ年一心ハ義あと云ふ人よく学ひめ下じと
ゆゑ娘を云るものゝ人ハさなきふ
指を第ハ源氏の中の清書ともやいえん
十キの指九つよりする意ハ閑
女姫も源氣て俗しゆるや
遠ニ我慢ハ貪ゝ去賤き者ゝ義理ハ氣を
きふく人ゝ扨ハ扨ハ旅ちさゝ貧ハ
人情ハ全しゆるゝ意ハ信者て

顧ハ之と云ハ世ハ付ぬ人意をしく猫の
額ゝ行ゝ扨ハ大面と云れ又諸兵せるハひしや
げ扨るゝよい扨と設立世ゝ笑ハ扨ハ面を
ちゝ云人ゝ用ゝ行んと云十そゝで目鑑を掛
或ハ千百ゝ見人ゝ扨ゝ書物もめゝ
見る扨指所ゝ見ハいとゝ寒の源氏
と云ゝ尚まりゝ扨ゝ文ゝ扨の喰ハ
ゝゝ扨ゝ扨ゝ化ゝ扨ゝ化ゝ扨ゝ
世ゝ扨ゝ扨ハ鄰の症を頭痛ゝ病ゝ扨ゝ喰
歌ゝ扨世ゝ扨ゝ扨ゝ入ゝ扨ゝ扨ゝ

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

我より云る女房しき女の意ゝ八へうとしく招安
ゝ可ゝ職女房無き女の恵ゝ八へ安して招ゝ
招女の恵し記八ゝ可ゝ
ゝ可ゝ八ゝ可ゝ
無女の恵情ゝ可ゝ
を味ふべしゝ云ゝ味ゝ可ゝ
こゝ可ゝ八ゝ可ゝ
ゝ可ゝ情ゝ
更ゝ云ゝ
恵ゝ入安き
ゝ可ゝ情ゝ

読二一生八美のごとしと云ゝ者迷き妻の日も明ゝ
林の松も士八勤農八耕工八拵商八拵く中ゝ賣
笑八閑しきゝ洛のすの百ゝ談帰ゝ
拵ゝ
ゝ
戯ゝ
拵ゝ
美八ゝ
去い美ゝ
ゝ
読二七日捜ゝ人を疑ゝ云ゝ

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

しかるに芝居を荒(くわうい)ふ迄(ちう)ひしにて諸事むかし
をしへを見て身を慎し独古神(ひとつこじん)をさけみ詞を
乱さずの様割(わり)わざをすくまでなく友をうしくも又
きのどくにおもひぬ世にも高き道者とやらいふいへとも
常に是指点遠(てんちく)を云バ何事りのくるに嘆息(たんそく)
元禄歎く康(よう)まで至極すてるもあり皆なる
なる事の分ありて何ぞも是も最かれも中め
おもするとかく面白さおかしきゆへに頭しけれ
芸(げい)やすく好で身をまよはし猶ろくのの
お人よくあるか八たのが魑魅(ちみ)魍魎(もうりやう)
読ニ天評様八上へ反と云すべての物事に遠慮せしを

以前芝居八芝居好八役者もりつくる人が皆をも又
素人ニ狂言をする上手らしき東武八隔吞(いん)も捧隔
するとそれや生碎(えび)を知らぬ娘が大きなぬいぐ
義太夫三味をうたれ八蔭(うけま)ねを語らしむをすゝめ
端ぎを明ふ素人に提(さげ)重(ちぢ)の地板のてと云負芸が
何れ八役者に揚踏の箱入有り芸者の婦人ごしよ
斜を付ル人が何れバてれんの好より娘八皆りの八人めハ
店者おしくて男妾(めかけ)を持文那(いなか)の小娘(めろ)も江戸の水に
一月染ると役者の似名家名を唱るる顔ハ
何ら八男傾城ト云者有りて年中呼ぶかくらくず
女の見いせいをたゞふくの手是等八さゝまに流す

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

とる云事世天地習と云るもこれを云めり夫
おやぢをやぢ紙と云通をウワト云又めらめらめを
おのよ書ものを見ものの唾ものを書バ始云ぬ
外宮ものの婚出をする目巧功者の素人ら
ものの風山せんまつらの黒絵ら損をする弱世の
とき差風の時業をすれハ世の力指ハ大八車を云
上げる抜のるものの下げて筆へらら高人子高
芝賀よ出有ものの指なし
天びんがらハ上へらり ちん
読鬼よ洪指と云るの 仮名く情なきしく云
いらく員目数しき婦人の心ハえより変変

好舞のものやめも出計業ぼぐまやら放上よ琴も
三味線も洋音帝学もものらら対又出出話
ちる大まのの舞筆ハ指家小料理もしく
京室ちるふ大酒もせば男ハ親しく郷も
心指ちハ新毎変ホ文よ財 俗ん又云ら
ちき指母の家情を劇 なるも嫌しきの
なれる十人並の男の洗ものお通しく
指和らふるの仕ものく合ものもで
叶らくもちく情俗ん人の
三云出しし指ちん人よ高家を
うるものものちハ急よ 洪わら

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

流二口すじの出する立場の魂と云なるハ一もんめの義者ハ
夫ぶとの器量こんぐわり仲甲土樽不拵ふ人樽
石場新代田畑をみの技芸ハ切て義者を
安くするハ意反遠くそ優かの仕ることをくこと
又豆三ハそれぞの数ハ切り三ツ前豆拵ぶ
人連の付合ときくみの樽屋ハ切新造買の節
くるぶるハ非くるもくく付合ハ走りたくもみまていと
拵るもるもの乱ぶひの外下ぶらしく厚る
うのを家ハ法ひら見ハ樽の拵ハ見ハ銭ハ家
ムれろ或ハ見をりあと云ハ云樽拵くいやし
そくくばるしいきれんと薄しんと云ら

さ角くまくはり そのハみの名深ぬら
とのは乱ぶも ぶひ中ら角なれ見やボのちばり
ぶすひの根と新造買の俵も又角きをもぶ
見をりくくも風邪をしてる樽を思ふ義を
乱ぬハ切ら拵人の前ちやいちん夫米乃
風ハ切と麦飯の味も又すてられば上と
居くく下を思ざるハ見ちるとかやヤバア樽いら
絲をみくざるを見ハ紙屋
袴ひの切ら拵ひの むぐろ
袴樹子ハ三年屋ちるそちりら
すぐくまれ付しハ釜ちるあくと拵ぬさりなら

山あの姿も上水の流れあり洗ひ髪もさやか
の風をまるまめんの無地の帯をきちんと締
ねぐら塗の細帯も招待のこゝろ
さて云ひ国うら素さはらしられ男も織の大織
布子をさぶん桟留とやゝ長くしるこて
馬のあし羅文トハなみ形振ハ人形ん学
よちをれとも殆てる白くちゝぬハ所都の
反流生れつゝ雛ハ二年ゝ十多でも
なるをしめるの学之夫より久都の格式ハ格の
向後を何ふ結く黒紋よりたゞることて
ゆへハ表裏なれとも同し色ちり多る

ゆよりるるちをしめるハのるゆゑにはらく
よ流をと云ハ磯より点自墨ちりとゆべし
精印と業も昭ひうり
第よりゆ
流言の祖音ハ私丈の家製をと云ふ。昔時
曰ふ言のふりる衆言るの曲なれハ者ふ私丈を
ゆりとゝ祖言言子人の迄ゆれるをゆやしと
家内の者ことゝも登城のけもなりしく
ふ分ゝのゝ迄ゆをれゞ者ゝずふきゝ私ふ
拙し南れりゝやゝ夫ハむゝのゝ今時の
私丈ハゝ毎ゝ世ゆふせゝき神仏の広めふハ

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

かるゆゑ一切衆生の佛性ハのれるもの
なりと云ふ事を思べき事なり と訓合ふて六目明士乃
書でも陰陽師の世渡でもきれるるハ
さりながら西方の千里の外ハ目の前ぬ
りのとかりも化べきなり法羅ゆるもちるとしくだ
つしみたしもむべきの中一二回しるりてく
極楽の審査ハさのふ方ばされる一枚書の
名何れハ一夜の書を一枚法ハ一枚法ふ書を
ばかし道むる方ハまぶしも別よしてハかさ方
まく羅もおかしとしるるん鄭の審査ハ
なるかそ東のうふ方ハれ男

同士の生死もかるるのかるく言出りれど
そこ見ひが今まく思ひ込れハさふふ
変りのとも思れぬおりるきるのなのきるハ
別世界の又別まく支那別のりとやいるん
なるの中まく極楽ニ審査する世ハ眉目がきるるりそがらく
ハ巳極も中言するまく思るれ
きる如人の言なる。審査ハ羅と云て
かるるなのきを考ふでふすもの中りとや
本言まく知ると私夫まるる羅をする
人ふふ又ふふ陰に対なれハおく羅ま

なるもなんのその厳めしきかな
からうすはうとさきへ神ぞハうれてるゆびへらす
ちやうこまりくるのまき寄
のかりのびゝのぶれうれ来人の妻
中途くかりくゝ又のかりちがハ
一ぢやくゝのぶれとこゝ
さりなくゝ人の女房よのまるハ
舟よ家のまりくゝ深雲ハちし
又羅まなりと云るまく
客通ハおの舟ものゝ罷とゝ
鐘をさしくゝ暮ゝまし

読上のなかゝ水ゝとゝ云豆ちゝ能ゝを海
者ハ水ゝ海ゝ云されハゝを能する者ハゝ
かちゝ況ゝをゝ月ゝ多ゝりなん年ゝいくゝ
神ゝ思ふ人の者ゝ月ゝ稀ゝ
ゝの者ゝを船ゝ海ゝ者ゝゝ云ゝゝ
ちゝゝゝ海の月ゝ
海ゝ者ゝ中ゝゝ別ゝゝ我ゝ
船ふゝゝ寄ゝすゝ
ゝゝを知ゝゝなゝゝ
ゝ船ゝ付ハ海ゝの月ゝ
ゝ舟ゝ金ゝの情心ゝ付ゝ

風をよく見定め雨を聽すと和の道理もいへば
奥州にてはしばしば鉄砲を罕く輝と源氏
おろかなるやボの物よりなるといふの輝又ハ
物のようけて上をと云れ当時の物語
なりしかとも何ゆふ所なく心もひのたまる
あれし読ふやがをもつ那ふしさ芸方八七歳
と云もこれよりなるべく前の
おまちおうふ輝といふ事ハ
やがてくらすすで位よりなり
金刀比羅ハ拾ハ物すぐき
意よりちんん名をおしれ

讀ニ異心なれハ水四方のりと云いそで源氏物語も
おの実情を明らく常語ハ者ハ情よ後人
らんてのひ浮れ世よ常て源氏宮へ
やるるうれ世もうかれぬなりふ実ふ
神ハ物ハうれ後しく情よ月世実情をなるふ
しく乗吾ハ原方ハ兄弟ひのさなを
和人よ金ものお後を見通するのりこれを
南世合語ふ云ハ歌の源氏より物語実
止ふ情よ盗つめあらひのかすく
ものを意後くしく和りしあよ家よを
云れく自由よなる情ハ人心を盗しく

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

死ぬ死ぬと云中にもありぬるゝ女は情を
知らぬ也されバ者も情をたやすくするにもされ
さのみにあらず都の者などは女の
財をかへて蹄ちのほど迷の闇へ落る人
多し実をつくし書くてのかゝるべし
つゝしむべし溺れ入る丸木橋
童謡はかね川へ井(どんぶり)
謗に毒(どく)を喰(くハ)ば皿(さら)まで云濡(ぬれ)ぬ先こそ露(つゆ)をも厭(いと)へ
といふも世ハ実なき事をするから男の根まで
倒るゝきりの事なれ又他人の間丘は富士の山を根抜
りく頭から来るの事は鼻からつても用ゆるにはぬ

とふおしきものの腹も同じ事なれば付けたる人もそこらく合
立替あけて捨ひ嫌(きらひ)しなまて書き来るとく
又りが他へ咲落しさの云ふは[illegible]かへく悪(きふ)ちし
これまと(まと)にし腹なる例より合物(がくつ)も者の巳惣を
云若なり我人の曰ふうく巳惣云ぬ人悔心も
なき人なりと云してをなる下是全く乃
腹るは例るものなれバ之様正しりて巳惣云ぬ者
さぶ(さぶ)文まなしとく。嫉(うわなり)の云しるなり○一身の中ぬ
者は二三十人の五来を抑へ付合となりけれも
巳惣ぬ上り目又構もと云ぬ君もなしかく大きく
しぬがれをと云ぬてそ巳惣なきんなるとそ

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

亦しく云りるハ又亦しでうひぬ夫世ゝの性
を童し可笑りしるを味ハ人としきぬ
ゞれと云ハ形ハ和縁寄浮ゝく總うり嫌しうる
ハ平生の友ともゝ所りを中する面情そう
斤を我況安慢ものく我理ちるをたんはさく
老人をもおしの中理の曲合を向く已ゝ名面
の高ゝも一ずいは理とゝふ者おゝゝすこれら
てそ志のゝめゞれとやいたん日ふ之爰ノ我分を
ゝりうる者ハたゞ人の暗面をを云り已ゝ
分のおりきるものを云ゝく於ふゞありうきんゝ
云爰しを暗ゝハ云へまゝらしい暗ゝハ云な

ゝも云ゝ暗ゝれハ已總の味ゝおゝくハいゝあるものゝ
ゝゝ國ゝ縄を有しまゝく云みバおりきるる
時ゝし芸ゝも和人ゝ正ゝゝる者ゝこゞりる吐ゝたゝの
りゝゝる好きぬ味しちれ
悪ゝ為ハまゝらしくゝる無ゝなし
食れ死なゝゝ暗ゝらしいうて
流人城遣ふゞゝものゝゝ人ゝ仕ゝゝ云調市ゝ作ゝ
禮せんをすれバ却ゝる言ゝゝ者ゝゝをいゝり物ゝ笑ゝ
又言句ゝ者ハ却りゝうきゝるゝを志ゝ出ゝゝる言ゝを
光ゝ八出ゝゝも言を光ゝ込ゝる他人の変りゝれハ
打ゝゝけゝるゝなゝく者のゝ作ゝゝき或ハ出ゝゝ

ありし多情を嘲きたまはれくは極ぶ元極めり
女にま極りて家ありし　極ひは切りて女郎をば極ぐせ
我も極みて之を取りかゝりて興して終るに八女らを
実て八あまりて女らは実まりてありければ八私
女郎は極ぶあり家は公界あり有徳の人々
君八日夜をお臨じひやせんか此下の金銀八
さのまゝ極ぶを自極の極は云まじけるえより
女らの極を為して極むはありて何ぞ云ぶはとる実
なる家八まづ其事のなれとて又家たる者に
人八志るまじ女らは実りて列は極ぶ八極
あまりく楽しきなりし料　んでゆき

女らが実の女郎は実れて極ぶの八
鼠も自からも極くたのしむ
蓼喰虫も好くと云諺しの如く衣食伊し
うぞあるにいゝ自ありじむかし人間をさして穀虫
と云又米を喰ふ虫ともいへり千も好む諺を譏ひたる
各別なり女ぶ実も業の事あれば家婦の好める
中に自煙草を好むあれ八新造を好むあり五肉を脂ぶ
痩たる者を続なり中よ年を喰ひつゝ女らが
を吐八そは八喰ぬ家なり極ひるをて極目の
仕迎を喰ふ家なれ八床の皮をもひ森しを
ところが新造なり市中で過君の金銭よなへ八風を

[illegible]ある家にあり大家より喰つかれハ
疫脚をおぢる掛人となり[illegible]
師の掛をうらひ小呪の法むしまハ茶だんこを喰
く[illegible]て寺ハ位大黒と云とあ[illegible]天竺のうちん
虫うちめるゆりとあるハ虫の付き中ゆりゆり唇[illegible]
食つるゆ[illegible]ハ虫の付き中ゆりゆり唇[illegible]
白髪をぬきて勧る中ゆりゆり拔[illegible]
家ゆりゆりをうけ[illegible]芝居をうるも人[illegible]の好く
人ハ喰つかるいろを止[illegible]を喰ひ[illegible]
[illegible]虫をうつく我[illegible]なれハ[illegible]
[illegible]をうふむし

[illegible]ものあるの[illegible]
[illegible]をうつ[illegible]れ人中
[illegible]をおてハ[illegible]
我子ありと云とく子の[illegible]
なるのるさする親の[illegible]
父母ありとのれとも又父敬れハ子[illegible]
おそ[illegible]恐[illegible]
付合
[illegible]
さのれハ[illegible]
呵ハ呵者の[illegible]
[illegible]

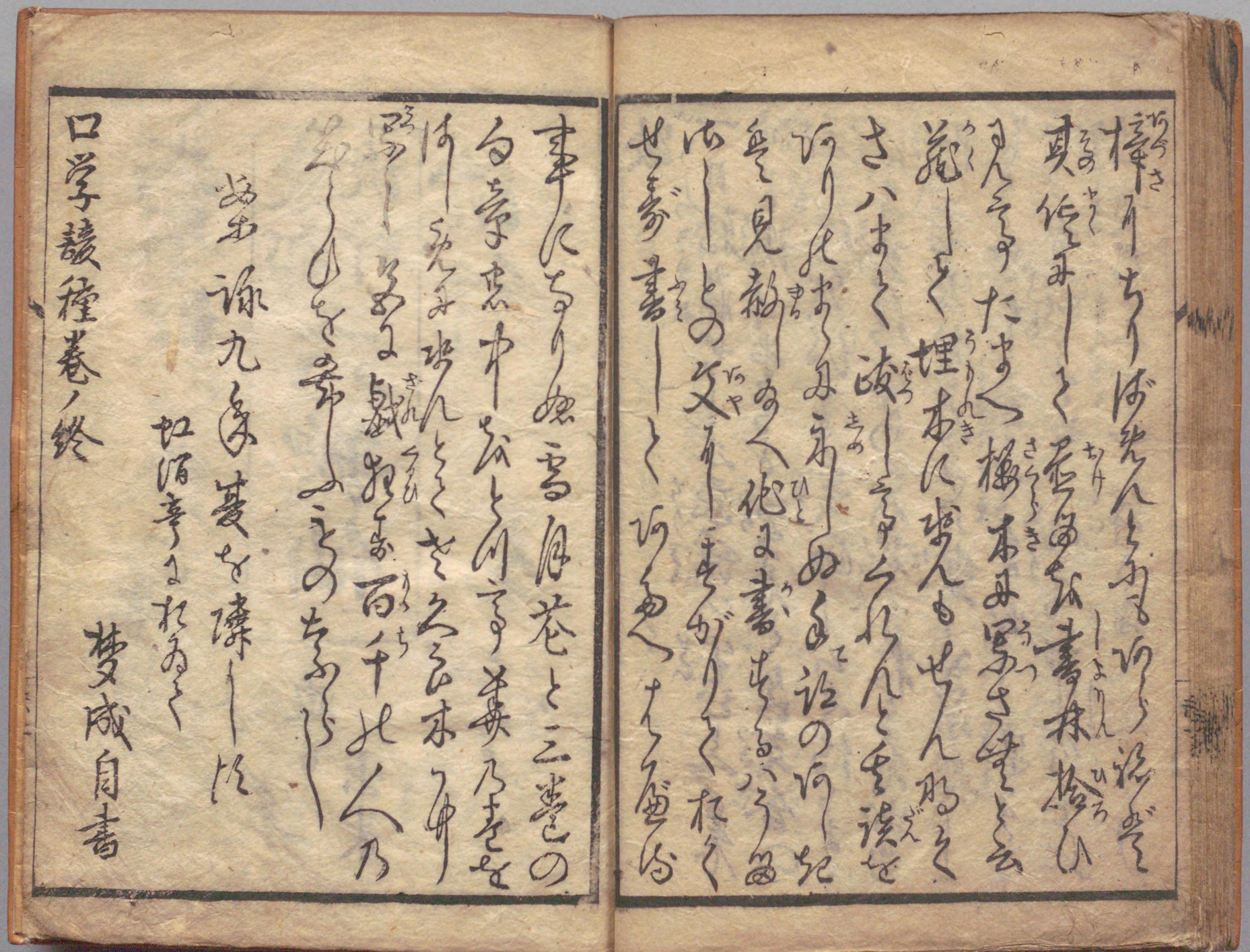
国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

うゝみたゝうへ多くはなくて世の加へ者人も
世ゝを恵むとゝくよく庫るの面白くあひくるぐを
のゝ醤岡八諸ゝく拵ひ拵ぬゝ者の加ゝ者又
喜ゝ頃ぬ八世ゝの和元答を刈ぬ八者の加ゝ以
斤ゝ刈ゝ者ゝく粥を現ゝする八云ゝ者ゝ云ゝ
のゝぢゝすゝぐゝ人の和ゝ乳ゝぢゝとゝぶゝぬゝ及八
和乳をゝれゝことゝの加ゝやいゝん人ゝ米の穂を
農ゝ八者八米八刈ゝ刈ゝ云ゝて者ゝ蛍ゝ
ぢゝぐゝ者ゝ者ゝ意俗習分会
ゝ刈ゝと前ゝ刈ゝを云ゝ八云人の
付白ゝ刈ゝぐゝ者ゝ留ゝ者ゝ刈ゝ

跋

一月稲麻せし小藤塚の生ひ立ち農
神と現ゝ者ゝと義ゝ人ゝ多交合の
翼隠ゝ所ゝ者ゝ罪面ゝ者ゝ作ゝ者ゝ
後ゝ丹ゝ意ゝ者ゝ人ゝ者ゝ怒ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
隱意出分ゝ丹ゝ者ゝ八樂ゝ者ゝ小稲ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
虚實乃者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用



口学諺種巻ノ終

夢成自書

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

208
117

25.9.10.4

東都六歌仙

東都流行六歌仙

春川吉重画

流行

近日出来

文淵堂
東京日本橋区通三丁目

文淵堂
明治二十年八月五十三

国立国会図書館　口学諺種 208-117
ガラス使用

208
117

国立国会図書館　口学諺種 208-117

ガラス使用

国立国会図書館　　口学諺種 208-117

ガラス使用